

## リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2013 川越に参加して

公益委員会 星野 弘

2013年9月14日（土）・15日（日）の両日、緑にかこまれた川越水上公園芝生広場にてリレー・フォー・ライフ・ジャパン 2013 川越が開催されました。このイベントがこの地で開催されるのは今年で5回目、本会としては3回目の参加となります。

リレー・フォー・ライフは、がん患者であるサバイバーさんやその家族と、24時間共に歩き語らうことで生きる勇気と希望を生み出し、がんという病気に立ち向かっていく、そのような思いを込めているチャリティーイベントです。

このイベントは、1985年にアメリカ・ワシントン州シアトル郊外で、アメリカ対がん協会のゴールドイー・クラット医師が始めたイベントです。マラソンが得意な彼が、大学の陸上競技場を24時間走り続けるなか27,000ドルの寄付を募り、対がん協会に寄付をしました。翌年からは医師、がん患者さんやその家族が数人ずつのチームを組むリレー形式となり、24時間歩き続ける中で、参加者の間にごんと闘う連帯感が生まれたのです。

今では、単なる資金集めのイベントとしてではなく、地域社会全体でがんを闘うための絆を育む場として大きく広がり、全米5,000カ所以上、世界20カ国以上で行われるようになりました。日本でも2006年9月に、茨城県つくば市で第一歩を踏み出し、現在では全国30カ所を超す地域で開催しています。

川越のリレー・フォー・ライフは、“ひとりじゃない”をテーマに掲げて、ひとりで苦しんでいる方も気軽に立ち寄れる「場」となることを目標に、どこにも気持ちを打ち明けられずに辛い思いをかかえている方が、安心して語ることのできるイベントを作ろうと発足したとのこと。参加団体は30を超え、約2,000人の方が共に歩きました。医療従事者やがん経験者、遺族の方や、学生さんなど、少しでもがんに関心を持っている人たちが集まり、様々なチャリティー活動を行い、その思いを共有しました。

本会も、46名という多くの会員の皆さまに参加ご協力をいただき、共に歩き、共に語り、チャリティー活動を行いました。

本会の活動内容としては、東日本大震災被災写真（平成25年復興状況）の展示やパネルを使用している医療画像展・放射線被ばく相談、乳がん検診説明会（講師：埼玉医科大学総合医療センター中央放射線部 石田直之氏）、CTコロノグラフィー説明会（講師：埼玉医科大学総合医療センター中央放射線部 清水隆広氏）などを行いました。またかき氷を配ったり、子供向けのスーパーボールすくい、水ヨーヨーつりなども行い、31,300円を寄付しました。

初日は晴天に恵まれましたが、2日目早朝、台風の影響で荒天となり、残念ながら途中でイベントは中止となりました。今年のルミナリエ（がんで亡くなられた人に思いをこめて、紙袋にメッセージを寄せます）に書かれている言葉に“希望”という文字を多く見かけました。人は、希望を持てば勇気が湧き、何でもできる気持ちになります。今年は24時間歩くことは出来ませんでした。来年に希望という名の襷をつなげたいと思います。

本会は、来年以降もこのイベントの手助けになるよう、微力ではありますが貢献していきたいと考えます。会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

最後に、お忙しい中このイベントの趣旨に賛同し、ご協力をいただいた会員の皆さまに、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

